

東雲地区タウンミーティング

平成24年12月21日（金曜）

【市長】 皆さんこんばんは、今日は1年で最も昼の時間が短い冬至でございます。ゆず湯にでも入って温まろうかという時間帯でございますけれども、皆様方には平日、お仕事の後の方もいらっしゃるかと思います、こんなにたくさんの方が集まっていたいただきましてありがとうございます。タウンミーティングの開催に当たりましては、東雲地区広報委員会の白形会長さんをはじめ役員の皆様のご協力をいただいております。心から感謝申し上げます。さてこのタウンミーティングは私が就任させていただいてから始めております。なぜ始めたかという、どっちが楽かという話をさせていただくと、市役所職員が市役所で座って待ってる、皆さんが来てくださるのを待ってるほうが楽です。でも果たしてそれでいいのだろうか、そうではなくて我々のほうから各地区に出かけていこう、皆さんの声を聞かせていただこうという思いで始めさせていただきました。松山市は公民館本館でいいますと41地区に分かれます。この各地区ごとに当然課題、問題点、お困りの点、そして各地区に魅力がありますので、それについて語っていただく、再認識をしていただこうと思いました。まずなぜ魅力かといいますと、例えばその地区の魅力について一番知ってるのは、行政ではなくて、地区に住む皆さんだと思います。例えば行政が主体になってまちづくりをしてしまったら、41地区どこも金太郎あめのようなまちができてしまう、その集合体である松山市はとてもおもしろくないまちになってしまいます。そうではなくて、各地区にお住いの方々がその地区の魅力を生かしたまちづくりをしていただくと、その地区は輝く、そしてその41の集合体である松山市はより輝くと言えらると思いますので、まず最初に魅力について話していただきます。そしてもちろん問題点、課題点もありますので、お聞かせいただけたらと思います。またこの松山市版のタウンミーティングの特徴ですが、いわゆるガス抜きみたいなタウンミーティングはいたしません。ここでお答えをできることはここでお答えをしますし、中には答えられない、例えば国と絡むもの、県と絡むもの、財政的な問題があるもの、そういうものはここですぐにお答えができないこともございます。そういうものに対しましては、必ず1カ月をめでに地区にお答えを返すことにしております。聞きつ

ばなしにはしない、やりっぱなしにしないのがこのタウンミーティングの特徴です。それではこのタウンミーティングは市のそれぞれの専門家が来ております。それぞれ自己紹介をいたしますのでよろしくお願いいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します。このタウンミーティングを統括しております。普段の仕事としましては、窓口における行政サービス、市民課、22支所7出張所、サービスセンター、パスポートセンター、住民主体における地域におけるまちづくり、人権啓発、男女共同参画そういった幅広い仕事をしております。今日はよろしくお願いいたします。

【社会福祉担当部長】 皆様こんばんは、社会福祉担当の大濱でございます。保健福祉全般を担当します。本日はよろしくお願いをいたします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路または公園等の整備及び維持管理を行っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【下水道政策課長】 皆さんこんばんは、下水道部下水道政策課の青木でございます。下水道部では公共下水道の整備による生活環境の改善、下水排水路等の整備による浸水対策というようなことを所管しております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【環境政策課長】 皆さんこんばんは、環境政策課長の大野と申します。環境部では皆さんが住まわれている生活環境の保全、ごみ問題、地球温暖化対策そういった業務を担当しております。本日はどうかよろしくお願いいたします。

【学習施設課長】 皆さんこんばんは、教育委員会学習施設課の赤松です。当課の業務としましては学校、公民館等の施設の維持管理、建設を担当しております。本日はよろしくお願いいたします。

【市長】 以上の6名でございます。それぞれ今担当が市民部であったり、保健福祉の部門であったり、それぞれ今持ってる仕事があるんですけども、市役所の職員はいろいろな課を経験していますので、できる限り自分たちの持ってる知識でお答えをさせていただきますけれども、間違えたことを言って混乱させてもいけませんので、そういうものはいったん引き取らせてまた1カ月をめどに返答させていただく形になります。今日は東雲のよいまちづくりに向けての話し合いができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 先ほど市長からごあいさつがあったんですが、早速1つ注文っていいですか苦言を言いたいんですが、お話の中で金太郎あめが出まして、松山じゃ金太郎あめじゃなくておたやんあめだという話でぜひこれから。

【市長】 早速おたやんあめに変えさせていただきます。いいですね、おたやんあめ。

【男性】 よろしくお願ひします。東雲地区の魅力ということですが、なかなか当事者として自らのよしあしはわかりづらいところがありまして、わがまちの簡単に紹介するということでお話させていただきます。ここ東雲地区は、松山城の東に位置します面積1.2平方キロメートル、約5,100世帯、人口8,400人のまちです。昭和51年には1万2,600人の人口を数えておりましたが、平成10年には7,400人まで減った、現在は1千人程増えて8,400人になっております。この東雲地区の65歳以上の高齢者の割合は26.8パーセントです。松山市の平均が22.8ですから4ポイントも高いということです。一方、15歳未満、中学生以下の子どもさんは9.9パーセント、松山市の平均が13.5ですから3.6ポイントも低いということです。松山市の少子高齢化が進んでる中でもさらに進んでるまちといえるんじゃないかと思ひます。ご承知のとおり東雲地区のまちの広がりには北は道後一万、南は三番町、東は持田町、西はロープウェイ街ということで大きく区画されておりますが、南北1.6キロメートル、東西1.1キロという範囲であります。この春から全国で愛唱されております「夜明けのブルース」の中の二番町というのはわがまちの南に位置するということでご記憶いただきたいと思ひます。地区には南北方向に樋又、勝山通り、それから西一万、八坂、ロープウェイ街、東西方向に平和通り、一番町、こういう大きな道が整備されておりますが、おおむね西半分は60数年前の戦災で消失してあります。東半分は戦災を受けておりませんが、特に持田地区を中心として、南北方向の道路事情が非常に悪い、それが非常に残念です。松山の中心でありながら道路事情が悪いところがあるということです。松山市の中心街であります大街道、湊町、銀天街、あるいは松山市民の憩いの場であります堀之内の方面には、遠い道後一万地区からでも、市内電車でおおむね15分で行けるといふ生活上便利な地域です。もちろん道後温泉も、歩いたり市内電車、バスで容易にこの世の極楽を楽しむことができます。また我々が市民の誇りであります松

山城天守閣は、ご承知のとおり現存十二天守の1つです。東雲地区のどこからも朝夕望むことができます。城山は毎朝多くの市民が登り、山頂の広場にあつて健康の増進あるいは多くの市民との交歓を楽しんでいることにつきましては、皆さんご承知のとおりです。このまちには愛媛大学をはじめ、高等学校3校、中学校3校、小学校2校が所在して、それぞれ長き歴史を重ねて特色ある教育を実践しております。愛媛県の教育界にあつて最も充実した地区であると自負しているところです。医療面も、総合病院であります松山赤十字病院を中心として、多くの病院、診療所があり、高齢化の進んでいる東雲地区の住民だけでなく、松山市周辺地域住民の生命の安全安心の一翼を担っているものと確信しております。なお松山赤十字病院につきましては、将来の医療にも対応できる病院に生まれ変わる計画が進んでいると聞いております。ますます生命の安全安心への期待が高まっているところです。今日集まっているうちの多くの方が高齢者に当たるかと思いますが、我々高齢者の子どもたちには、城山とか御幸寺山とかお囲い池、かわらけ堀などが学校から帰ってからの遊び場でした。遊びにおいても創意工夫の毎日でした。お囲い池とかかわらけ堀は既になく、今どきの子どもたちはどのようにして遊んでいるのだろうかという疑問をもちます。城山とか御幸寺山で遊んでいるのでしょうか、それともゲーム機で遊んでもらっているのだろうかという心配があります。先日東雲小学校の子どもと地区の高齢者が集まって、こまとかけん玉とか紙飛行機とかお手玉とかそういう懐かしい遊び道具を介しての交流会が開かれました。楽しいひとときでした。それは手足はもちろん全身使つての遊びで、工夫を重ねての遊びでありました。この交流会を振り返ってみますと、高齢者も捨てたもんじゃないという思いを持ちました。歳をとれば頑固になる、あるいは小うるさくなるといわれますが、彼らは昔取つた技能、能力を持っており、そういう人たちの集団であります。「高齢者よ、積極的に自らの資産、持つてる能力を社会に還元せよ。将来の日本を背負つて立つ子どもたちに自らの経験技能を伝授せよ。日々工夫あるいは創造のときを過ぎた経験を伝えよ」という思いを私は持つております。以上のように老いも若きもこのまちで大いに生活を楽しんでいるところでもあります。この楽しさあふれるまちではありますが、大切なのは大いなる可能性を秘めた子どもたちであり、その子どもたちを磨きうる高齢者です。我が東雲地区の宝である子どもたちと高齢者は、美しく明るい日本の将来を

つかむために大いに切磋琢磨していきたいと私は考えております。以上で簡単な説明を終わります。

【市長】 ありがとうございます。もう網羅していただきましたので、皆さん改めてこの東雲のよさについて思っていただけたんじやないかと思えます。私も平和通りの友達とよく松山城で遊んでいた人間であります、父親が県職員だったので官舎に住んでおまして、清水小学校の入学、卒業です。実家は北条で、北条の家から最寄りの公共交通機関、当時国鉄の栗井駅までは自転車で一生懸命10分はこいでいかないと公共交通機関利用できませんので、非常に東雲の方はうらやましいと思っていたところです。たくさんの宝がある東雲ですので、皆さんと一緒に磨いていきたいと思えます。それでは皆さん問題点とかお困りの点とかあると思えますので、早速移っていきたく思います。お願いします。

【司会】 ご意見をいただく前に、皆さんの関心の高い東雲小学校の小中連携について説明させていただきます。

【学習施設課長】 学習施設課長の赤松です。それでは東雲小学校の小中連携校整備について説明させていただきます。今回の事業ですが、老朽化した東雲小校舎を耐震化するに当たり小中連携をより機能的にするために、小学校新校舎を東中校舎に併設して建てかえるほか、教員研修や教育研究を目的とした教育センターを新たに整備するものでございます。それでは今回の計画についてスライドで説明します。左側が現在、右側が整備後の配置図です。左側の赤線囲み部分が東中学校で青線囲みの部分が東雲小学校です。北校舎と南校舎が耐震化が必要な小学校校舎です。新校舎建設に当たり北校舎の西半分と小学校プール、中学校プールと剣道場を取り壊した後、東中学校の校舎と併設する形で新校舎を建設し、完成後に小学校の校舎、体育館などすべてを取り壊す予定となっております。教育センターは敷地の南西に小学校校舎と一体の建物として建設する予定です。また学校整備に伴い、小学校南側に片側3.5メートルの歩道と幅員5.5メートルの道路を新たに整備し、歩道に面した部分に正門を設ける計画としております。では今回の整備により学校がどのようになるかを基本設計でのイメージパースをもとに説明します。今回の整備の特徴の1つですが、小中学校のプールを新校舎の屋上に、小学校の体育館は教育センターの4階部分としており、屋上のプールは中学生用プール、小学生用プール、小学生低学年用プールの深さの違う3つの

プールを整備する計画としております。これが南側の正門から見たイメージで、正面が小学校の新校舎、左手が教育センター、右手が遊具を設置するスペースとなっております。次に学校の東側から見たイメージがこのようになります。左手が小学校の新校舎、右手が東中校舎で、2階、3階部分を連絡通路でつなぐ計画としております。これが屋上プールのイメージとなります。以上が基本計画での整備概要となりますが、最終的には実施設計で若干変わることもあるのでご了承願います。次に敷地の利用計画についてですが、プールや体育館を一体施設とするなど空間の有効活用を図ることや、東雲小の児童数が昭和30年代の約2千人から現在は300人弱と大きく減少していること、また東雲小学校の敷地は国有地で年間1,400万円の使用料を国に払っていることなどから、南側の部分は国に返すこととし、現在協議を進めております。これにより小中学校の敷地面積が34,365平方メートルから25,233平方メートルに減少しますが、空間を有効活用することで、運動場は整備前と同じ面積を確保しております。なお国に返す南側部分については新聞等で御存じかと思いますが、日赤が国に対して病院の建てかえ用地として取得の申し入れを行っているところです。次にスケジュールについて説明します。この事業は平成27年度までの4カ年の事業で、現在設計を行っている段階です。工事着手は平成26年度を予定しており、翌年27年度に新校舎を完成させ、2学期からの供用開始を目標としております。新校舎完成後に既存校舎の解体工事や外構工事となり、最終完成は平成27年度末を予定しております。工事の着手に伴い騒音や工事車両等で東雲地区の皆様にはご迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、細心の注意を払いながら進めてまいりますのでご理解ご協力をよろしくお願いいたします。以上で説明を終わります。

【司会】 東雲小学校の小中連携について説明をさせていただきました。この件につきましてご意見、ご質問等ございますか。

【女性】 今、新しい東雲小学校の建てかえの計画を聞かせていただきまして、小学生の保護者といたしましてとても楽しみになってまいりました。たくさん保護者の方たちが、学校のことは報道でしか知れないのでどうなっているのだろうかという声をよく聞きまして、また地区内に住む未就学児を持ってらっしゃる保護者の方も、これから入学を考えているんだけどどうなっているんだろう

と不安の声が上がっていました。今後ですけれど、こういう説明会を地域の方にはしてくださっているとお聞きしているんですけれど、学校の保護者対象に開いていただけるのでしょうか。よろしくお願いします。

【市長】 これは基本的にできます。

【学習施設課長】 はい、東雲小学校のPTA総会で4月21日に説明をしております。11月8日には東雲地区の広報委員会での説明を行っております。今後も情報発信に努めてまいります。ご要望がございましたら、学校や公民館等を通じまして教育委員会へ申し出ていただければ、それぞれの団体等における会合にあわせて説明する機会を持ちたいと思っております。よろしくお願いします。

【男性】 今回の学校の説明に絡むんですけれども、市長の公約、ホームページで見ました。誇れる子育てで笑顔についてということで、学校の芝生化を提唱されておるのを見ました。ホームページの情報が古かったと思ひまして、23年度の実績と24年度も終わりごろなんで、もし、そういうことがありましたら教えてほしいんですけれども。ちょっと気になるのは、芝生をやるというときは皆さん、地域のボランティア集まってやると思うんですけれど、夏休み、冬休みとあって、維持管理が気になっておりまして、地域の方でこういった形で維持管理していくのか、PTAという言葉もありましたけれど、併せて夏場の芝生は水が要るんで、松山で水というといろいろ問題、分水問題もあって、そこらでうまく過去にやってこられた実績で対策があれば教えていただきたいと思ひます。

【市長】 私からお答えをさせていただきます。まずホームページ、情報が古いというお話がありましたので、さっそく改めさせていただきます。そして芝生化についてですけれども、これは、押しつけるものではございませんで、手挙げ方式でさせていただきます。23年度、最初にやったのが3校。そして24年度が5カ所でさせていただきました。一番よくわかるのは松山市立坂本幼稚園のホームページを見ていただきますと、日々の様子がつづられておりますので、一番わかりやすいかと思ひます。5つのメリットがございます。まず、はだしでのびのびと走れる環境ができますので運動能力の向上、そしてコミュニケーション能力の向上。今の子どもたちは自分の気持ちを表すのが非常に下手になります、それは子どもたち同士で遊ぶ機会がものすごく減っているのです。子どもたち同士で遊ぶときにコミュニケーション能力は磨かれてきました。例えば僕はこ

の遊びがしたいって言ったら、気持ちを表しているんですよね。当然、遊びと遊びがぶつかることがありますから、工夫をする、調和をする、我慢をするっていうのでコミュニケーション能力が鍛えられてまいりました。でも今、子どもたちだけで遊ぶ機会って少なくなってきましたので、そういう子どもたちがのびのびと遊ぶ環境をつくるというので、2つ目の利点としてコミュニケーション能力の向上。熱中症対策、砂ぼこり対策、そして一番大事なのが地域の方々と一緒に芝生は植えていただきます。梅雨時期、6月ごろに植えて、大体2カ月ぐらいで生えそろえます。鳥取方式、ティフトンという繁殖力の強い芝生を使います。50センチ間隔ぐらいで、園児さん、お子さんと保護者の方、地域の方、教職員の方一緒に植えます。なぜかというと、芝生を植えると生き物ですから芝生が元気に育つとるだろうかっていうのが気になります。そうなる芝生が植わっている園への関心になります。そうなるとその芝生がある園で育っている子どもたちの関心にもつながっていきます。今本当に地区で子どもを育てる環境にありませんけれども、そういう地域で子どもたちを育てるのがこの鳥取方式の大きな意味合いです。でも松山市は水の少ないところですので、例えば雨水貯留施設とか雨水タンクがあるところで、プールの水を有効利用できる場所、水の再利用ができる場所、水のケアができる場所、そして地域の応援体制が整ったところから手挙げ方式でしていただいておりますので、押しつけるものではございません。そのような趣旨でやっておりますので、趣旨にご賛同いただけて芝生化が広がっていければと思います。最後に坂本幼稚園では非常に運動能力向上している、コミュニケーション能力も向上しているようで、報告ではすり傷一切なし、ばんそうこうをつけるようなこともなくなったと聞いております。

【男性】 2番目の高齢者への支援にも関連してくるんですけども、小学校の敷地を国に約10,000平米返すようになっているところを、松山赤十字病院が買収するというお話でございました。松山赤十字病院は基幹病院でもあるし、市民にとっても非常に重要な病院であると思います。松山赤十字病院も敷地がなければ他へ移転するという計画も新聞等で見えておりましたので、ここに残っていただいたことは非常にありがたいと思うんですけど、その計画等がございましたら教えていただきたいと思うんですが。

【市長】 これについては日赤さんという民間がやられることなので、今我々の

ほうから発表するということはございません。大濱部長から何かありますか。

【社会福祉担当部長】 保健福祉の分野から、お答えをできるところはお答えをしたいと思いますが、現在、教育から説明があったように、教育から国に返す土地を、日赤が売ってほしいと国に申し上げているといったことで、そういったことが可能になれば、現場での建てかえを考えておるということではないかと側聞しております。規模につきましても全然わかっていない状況で、土地が確保できるかどうかは今の場所にやるのかということだろうと今は思っております。以上でございます。

【男性】 12月2日に、東雲地区の自主防災会の訓練を行いまして、その際には東消防署はじめ、市役所からハザードマップが新しくできて、その説明に来ていただきました。誠にありがとうございます。今年の8月19日に集中豪雨がありまして、道後湯之町から、緑町、東雲校区がいくらか水に浸かりました。これが実証では35ミリの雨となっておりまして、その後、9月3日にも集中豪雨ありました。そのときには被害がなかったんですけど、私が住んでいる此花町、青少年センターの裏ですけれども、やはりひざ下くらいまで、昔のお囲い池ですからそのほうに水が流れていくという格好になりまして、これも浸かりました。10分当たりの降水量が气象台から出されておるので調べたところ、大体50ミリ前後の雨じゃないかな。8月19日は時間当たり直しますと100ミリ超えるような雨ということです。松山市の下水道の容量というのは大体50ミリぐらいかなと推測できるんですけども、下水道のほうとしてはどういう対応をされておるか、今後どういうふうにされようとしているかお聞きしたいと思います。

【市長】 これ私から。8月19日は、ちょうど俳句甲子園の日で、コミュニティセンターの中におりました。俳句甲子園が終わって、夕方、道後の商店街にまいりました。どのような状況であったのかさっそく聞き取りをさせていただいて、お見舞いに行かせていただきました。さっそく下水道の担当を呼びまして、改善するよう指示を出しております。8月19日の雨が松山地方气象台観測史上最大です。10分雨量が24ミリ、1時間換算で144ミリの雨が一時に降ったのでこのようなことになりました。ちゃんと地図も見て、どこがどうなっているかも把握して指示を出しておりますので、できるだけ早く改善していきたいと思っております。これまで、最大径3メートル、直径3メートルの下水道管を6.5キ

口整備しまして、いつだったですかね、和泉のほうが10カ所ぐらい浸かった。

【下水道政策課長】 松山市では、平成13年にかなり被害がありました。このときの雨が大体1時間雨量で41ミリ、日雨量で263ミリという、当時はこれがかかなりひどい被害になりまして、そういう被害を教訓に、少なくとも床上浸水、これは家財まで失うような被害ですから、少なくとも床上浸水を早く解消しようということで今取り組んでおります。そしてこちらの此花地区につきましても、このあたり昔は非常に雨に弱いところで、昭和54年ごろに一度大きな災害がございました。そういうことを教訓に、先ほど市長が申しあげました直径3メートルの増補管、そういう幹線をするとか、その他雨水の調整池をやるとか、ハード整備ではもうなかなか難しくなったからゆっくり流す、貯めて流すということに一部考慮もしながら、整備をしております。そしてご指摘いただいた道後地区はじめ、8月19日の浸水に対しても、今まさに、その原因と実際のメカニズムも研究をして、できることから対応をしておりますので、もうしばらくお時間をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【男性】 それで、私が1つ思うことがあるんですけども、10分間に17ミリとかいうオーダーで降ると50ミリですか。降るのは集中豪雨ですから5分か10分、もしくは20分の間じゃないかなと推測します。その間全部下水が飲むとパンクするはずですよ。それを一回どっかにプールするとか、プールいっても東京都がやっとなるような地下にプールをつくるんじゃないかと、私が1つ思うのは、道路上にプールをしたらどうかな、それが10分か20分たつと引いてしまうというような格好で、地下にプールをつくるんじゃないかと、道路の表面に凹凸をつけるというような格好になるかと思うんですけど、それか開所を小さくして飲みにくくするとか、弊害もいろいろ出ると思うんです。

【下水道政策課長】 方法については我々もいろいろ考えておりますけれども、今言われたことも参考にしたいと思っておりますので、また後日伺いしてアイデアいただきたいと思います。

【女性】 東雲公園ですけど、遊具があるところと道路を挟んだ反対側がまだ利用が十分できていないところがございまして、先ほどの市長のおっしゃった芝生化も同じですけども、緑化をしていくことと土に触れること、街中の子どもたちはそういう機会が少ないので、あの公園をコミュニティファームというよう

な形で、地域の人たちや子どもたちと一緒につくっていったらいいなど。つくっていききたいものにはどのようなものがあるかという、東雲小学校の校長先生からも、例えばお芋を植えていもたきをしてはどうかというご提案もありました。私のほうは公園を使って防災のときにいもたきの炊き出しの訓練と一緒にさせていただければ、地域の方とも仲良くなれるなどか、お年寄りの方にもお声をかけて一緒に畑の管理をしていけるのではないかなど。私たちもお手伝いをさせていただきたいと思っていますが、そのようなアイデアに対して、市としてどのようにご協力いただけそうかご回答いただけたらと思います。

【都市政策課長】 東雲公園の利用の仕方ですけど、今回おっしゃられましたコミュニティファーム、体験的な農園としての利用につきましては、都市公園法の中に公園内に設置できる施設としてございます。子どもたちの体験学習の場として小学校を中心に活用できる可能性はございますので、今後また具体的な活用方法について一緒になって検討させていただきたいと思います。

【市長】 なんかできそうな雰囲気ですね。

【男性】 私は環境問題、特にごみ問題について、東雲校区は専門学校、大学があり、学生マンション、賃貸マンションが建っております。そこで、話として近隣住民とごみの出し方でトラブルが起きていると聞いております。私は、この間県の地方局行きまして、都道府県でやる一部の事業税について聞きました。事業税となると1棟のマンションで10室以上、駐車場が10台以上あったら事業税でとれるそうです。賃貸マンションを営業されているオーナーは事業として、商売としてやっておられると思いますので、借借人からごみ代として共益費の中に入れて、それを事業系のごみとして専門の回収業者にされてはどうでしょうか。以上です。

【環境政策課長】 環境政策課長の犬野と申します。本当に日ごろごみの分別、収集に皆様のご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。今おっしゃられたような学生のマンションとか、なかなか分別が難しいという話もいろんな地域から伺っております。松山市としましても、例えばマンションのオーナー、大学関係については大学へ行きまして、新入学のときとか、今度学校を去るときとか、学生に対してごみの分別を、ちゃんとしてくださいというお願いをしているところですけども、今おっしゃられたようにマンションにつきましては、一般

廃棄物ということで、松山市がとらなくてはなりません。ですから私どももオーナーとかそういうところに行ってPRを一生懸命する、チラシをつくってごみの出し方をきちっとしてください、分別をしっかりとお願いしていくということです、もしそういうマンションがありましたら、清掃課へご一報いただけたら、オーナーさんへも十分ご説明させていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

【市長】 今日37地区目のタウンミーティングですけれども、大学生さんとかひとり暮らしの若者が多い地区では、よく出る事柄です。ごみのお世話をされている方々のお困りな気持ちはよくよくわかりますので、継続して清掃課に指示をしております。今日も、松山大学で自治体首長リレーという講義がありまして、私の番で1時間半講義をしてみました。松山大学の学生さん、たぶん2、300人いたと思いますけども、その中で「皆さん、周辺の方ごみお困りだからきちっとマナーを守ってやってください」ということも話してみました。もう少し皆さんにごみ出しのルールを守っていただける取り組みを強めてまいりましたし、これからも強めてまいりますので、またご協力いただけたらと思います。よろしく申し上げます。

【男性】 さっきのごみ出しの話ですが、1つは要するにルールを守ってないのを押さえないわけですよ。押さえるには一番いいのは録画しとくのがいいですね。カメラと録画機のセットで大体5、6万。松山市が5万出すとして20セットとしたら100万です。100万で購入して、半年間貸し出すという形、要するに千を超える町内会で皆さん困っている。20セットあれば半年ごとだったら40カ所セットできます。それで現行犯といいますか、押さえつける。そういうことでもやらないことには、なかなか事業者に頼む、要請するのは難しいです。それと今の松山大学のっていう話ありましたが、ごみ当番をやらんことには卒業できんという形で、単位認定、必須単位という形で松山大学とか愛媛大学とそういう形でできんかと。彼らは聞く耳を持ってない、とどめる耳を持ってないという思いがありますので、そういう対応も必要じゃないかと思います。

【市長】 はい、アイデアをいただきましたので、また検討させていただいたらと思います。

【男性】 地域の高齢者福祉サービスの拠点であります地域包括支援センターに

についてお聞きしたいと思います。当地区の住民は八坂校区を越えて、さらに石手川を越えて素鷲校区のセンターを利用していますが、当地区と道路1つ隔てた持田一丁目に他の校区のセンターがあります。そこでは介護認定申請の受付のみで、後の対応はしてもらえません。すでに小学校の場合は校区外から入学ができる弾力的な運用がされていますが、当地区の住民については、一定の手続きをとれば、同様の仕組みで、他の校区の支援センターを利用できないか検討していただけたらと思います。以上です。

【社会福祉担当部長】 失礼します。まず、地域包括支援センターの概要について、地域包括支援センターは、現在市内の10のエリアで設置しておりますが、お住まいの場所から非常に遠いことで不便と感じておられる方もいらっしゃるということもお聞きしております。ただ、地域包括支援センター自体は、利用者のお越しをお待ちするのではなくて、お電話をいただければ直接訪問させていただいて、相談をさせていただくということ、ご一報いただければ包括支援センターのほうから出向いていくことを基本としております。そうした中で、他の校区の支援センターを利用することについては何ら問題ないんですが、住み慣れた地域で安心して生活していただくことを基本として、その地域自体の介護、関連した予防サービス、医療、この医療には医師や病院の場所なんかを含めて、その地域で独自の支援サービスも、包括支援センターは日々活動の中で調査もし、準備も進めておるのが現状です。そういった意味で、一般的なサポートについてはご利用いただいても結構ですが、その地域で活動されるサポート、その圏域の中の介護も含めた社会資源も掘り起こしながら、その圏域の中の方々の支援をどうすれば一番いいのかという検討を地域包括支援センターは行っており、個々の相談になったらその地域で一番詳しい包括支援センターをご利用いただくのがベストという思いで進めておりますので、そういったご理解でよろしく願いをできたらと思っています。

【市長】 今聞いて、地域包括支援センターが直接高齢者の方のお宅に出向くことを基本方針にしているっていうのが、まだあんまり知られてないんでしょうね。その広報のやり方をもうちょっと検討しないといけないですね。

【男性】 近年、県知事公舎跡地をはじめ県有地が民間に売却され、当地域に高層分譲マンションの建設が相次ぐ中、現在新たに市内最高層となる22階建て、

高さ65メートルの分譲マンションの建築計画が進められ、地元町内会で反対運動が起こっています。今後もこうした状況が続けば、市の宝であり、またシンボルでもあります松山城が見えなくなること、ますます景観阻害が懸念されます。現在の市のルールでは、建物の高さ制限はないと聞いていますが、松山城のすばらしい景観を後世に引き継ぐためにも、例えば、お城から一定の距離の範囲内は、今後高さを制限するなどの規制等を十分審議され、松山市景観条例で規定することはできませんか。検討していただきたいと思います。

【都市政策課長】 今おっしゃられました高さ制限ですけれども、高さ制限した場合にやはり、いい面、悪い面がございます。例えばいい面としましては、やはり今おっしゃられましたように、まちの景観、生活環境の保全ということがございます。逆にデメリットの面につきましては、中心部におきましては都市計画で誘導します土地利用、用途地域といいますけど、用途地域で主に商業地域でいいますとやはり容積、建ぺい率でかなりの土地利用、高いものも建てて、中心市街地への民間の投資意欲が高まると思います。逆に高さ制限をしますと、経済活動に支障をきたす可能性があると考えております。しかしながら、松山市におきましても榎町通りにおきましては50メートルに高さをしてくださいという形をとっております。この高さ制限につきましては、基本的にはやはり皆様の意識、景観に対するいろいろな制限がかかりますことから、意識の高揚は非常に重要であると思いますので、今後とも、高さ制限することによってのいい面とか悪い面とかをわかっていただきながら、皆様のご協力がいただければ、松山市としても、今後お城山が見えるような景観に配慮した形で検討していきたいと考えています。

【男性】 今の関連ですけど、持田町の県の総合福祉会館の北側にあります松山市公営住宅の跡地利用について質問及び要望をしたいと思います。現在、解体が終わりまして更地に近くなっているんですけど、この利用についてはまだよくわかっておらないわけですけど、どういう計画でいるのかお伺いしたい。次に要望ですけど、ここは住宅地の真ただ中で、非常に閑静な環境にございます。ここに、さっき出ましたような高層住宅が建つということになりますとはなはだ遺憾じゃないか。安易に民間業者に売却してその後どうなるかわからないということは、ぜひ避けていただければと思います。住宅地にふさわしい利用計画が出されてほしいと思います。それから当該地に至るアクセスの問題ですが、南町のほう

から入って当該地に至る道路ですけど、非常に狭いので車の離合が難しい、あるいは車と歩行者の離合も非常に危険な状況にあります。当該道路は学校の生徒、児童あるいは幼稚園児の通学路としても利用されておりますので、ここに非常に人が集まる、または車が非常に多くなるという利用計画がなされますと、大変生活上危険ですし、せつかくの教育環境もよくないんじゃないかと思うわけで、ぜひそういうことも考慮して利用計画も立てていただければと思います。以上です。

【都市政策課長】 今の持田住宅につきましては、来年の2月末に取り壊しを完了する予定です。その後の跡地利用について、今現在では市営住宅を建設する予定はございません。また、跡地利用につきましては、松山市に跡地利用の検討委員会がございます、そういう中で今後どういう有効な活用計画ができるかを検討してまいりたいと思います。あわせて今、道路整備もおっしゃられたんですけど、道路整備と一体になると思いますので、そういうことも含めて今後検討させていただきたいと思います。

【市長】 私から、すみません、職員は手元に細かい数字などがありますので座ったままになりますが、私は皆さんの顔を見ながらお話をしたいので、そのような違いがありますがご了承ください。高層建築物のことについては、無秩序に知らんうちに建てられるわけではございません。硬い言い方ですけど、中高層建築物の建築に伴って発生する生活環境に関する紛争の予防及び調整を目的として、松山市中高層建築物の建築に関する指導要綱をつくってまして、建築側に建築物の事前公開や近隣の住民の方への事前説明をお願いしております。建築紛争に発展しそうな場合は、松山市は両者の申し出によって調整を行うことも規定されておりますので、知らん間に2階建てが建てしまったとかいうことにはなりませんので、そのあたりはご安心いただけたらと思います。

【男性】 失礼します。この分で松山市は中核市で50万人以上の人口がありますんで、中核市になれば先ほど言った教育センターができますよね。そしたら児童相談所もつくれるんじゃないでしょうか。県の児童相談所は忙しいです。松山市独自に児童相談所はどうでしょうか、その跡地に。以上です。

【社会福祉担当部長】 跡地利用については今突然お話を振られたので、ちょっと今考えてなかったんですが、児童相談所については今後そういったことも踏まえて検討をしてまいりたいと考えておりますが、直ちに何かができるということ

ではないのでちょっとお時間をいただいたらと思います。ありがとうございます。

【市長】 すみません、私から。今50万都市の話がありましたので、お知らせしたいことがありますと言わせていただきます。ロープウェイ街、坂の上の雲のまちということで新たになりましたけれども、ロープウェイ街を訪ねさせていただいて、「ロープウェイ街がきれいになったんはええんじゃけど、看板代金が相当高くなったんじゃけどあれは何とかならんのかな」というのを聞いておまして、実際に高くなっていたんです、内容を調べると。といいますのが、平成17年の1月に松山、北条、中島で合併して50万を超えた瞬間に、これもひどいなと思うんですけど、政令指定都市を含む大都市と同額になっちゃうんですよ、50万を超えた瞬間に。これはちょっとおかしいなということで、何とかしましょうよってということで、現場のほうからちょっと難しいですみたいなことがあったんですが、いや何とかしましょうよってということで、お待たせをしましたんですけど、この間の議会で認めていただきまして、値段でいいますと平成17年の合併時は1平方メートル当たりの看板の年間の占用料が4,400円だったんですけど、合併して50万都市になって14,000円になってました。高いです。今回新たに松山市で条例をつくりまして、4月1日から適用されますけれど、3,500円になりましたので、これで看板類や日よけ、足場などの占用料が現在より大幅に引き下げになりましたので、この点をご安心いただいたらと思います。また、市長へのわがまちメールという制度もございます。私メール使えんのもよっていう方、はがきでも封書でも結構ですので、「市長、これちょっとおかしいんじゃないの」って言うことがありましたら言ってください。ものすごく広範囲に及びますので、気づかないこともありますので、それは教えていただいたら、改善できるものから改善していきたいと思いますので、また言っていただいたらと思います。予算の話をちょっとさせていただきます。今も「こういうの建てたらどうだろうか」って言っていただくんですけども、タウンミーティングの各所で皆さんから、「市長、こういうふうにしたらどうだろうか」「こんなもんつくってくれたらどうだろうか」って言う要望いただくんですけど、なかなか残念ながらその要望にすぐにお答えできる状況にないということをご説明させていただきます。今、国は983兆円の借金を抱えております。日本の人口はわかりやすくいいますと1億人、1人当たりどれだけの借金を抱えているのかっていうのがわ

かっていただけますけど、国から地方に地方交付税交付金とか国庫支出金という形でお金が配分されてきます。でも大もとの国がそれだけの借金を抱えているならば、地方に回ってくるお金が膨らむとは考えにくいですよ。そういう中で、松山市の1年に出ていくお金を歳出といいますけれども、この中で一番大きなウエイトを占めているのが民生費です。あと土木費とか教育費とかいろいろあるんですけど、民生費、福祉にかかるお金が40パーセントを占めています。これが松山市だけで1年だけで50億円増えたんです。これ松山市だけが特殊な状況ではございません、ほかの地方都市も大体このような状態です。皆さんがよく聞かれる生活保護費もこの中に含まれます。これセーフティネットなので真に必要なとされている方には本当に大事なお金です。もちろん、職員も一緒にハローワークに行って就労支援をしたり、適正化に様々努めておりますけれども、なにせ経済状態がよくないので、生活保護を申請される方が増えてます。生活保護費は1年だけで松山市だけで15億円、決算ベースで増えたという現状がございます。ということはもう国からの配分は大きく膨らむことは考えにくい。そして少子高齢化の時代ですから、これからなかなかお財布が膨らんでいくというのは考えにくい。そういった中で民生費が50億増えたならば、50億どこかで絞らないと財政のバランスは悪くなります。生活保護費が15億円増えたならば、どこかで15億円絞らないと財政のバランスは悪くなります。こうやってタウンミーティングしまして皆さんから要望いただきますけども、いわゆる市長の人気取りからいったら、「わかりました、それやりましょう」って言ったほうが、私も人間ですし楽ですよ、そっちのほうが。でもそれをやってしまうと将来の子どもや孫にツケを残すことにほかならない。じゃあなぜタウンミーティングやってるのかっていうと、やっぱり皆さんのお話をしっかりと聞かないと、やることが間違っはいけません。直ちにできないこといっぱいあります。この時代ですから、皆さんに我慢や負担をお願いすることもありますけれども、やはり皆さんのお話を聞いておかないと間違ってしまう、それではいけないので、皆さんのお声を聞いて、松山市として何をしなければならぬのか優先順位をつけさせていただく。そのためにやっぱり皆さんの声を聞かせていただくのは大事ということで、このようにタウンミーティングをさせていただいております。もちろん、財政厳しいから、どこの自治体もそうですけれども、財政が厳しいからといって何もしないわけ

ではございません。今やらないといけないことはきちっと今やっていく方針ですので、ご理解いただけたらと思います。このような状況でございます。

【男性】 ロープウェイ街のことを話させていただきます。坂の上の雲のまちづくりということで、非常にハードもよくなりました。今後僕たちがソフトの部分で頑張っていこうと思っているんですけど、例えば道後の本館なんかは、道路を通行止めにして車を通らなくして、商店街と本館との行き来がよくなってあそこは非常にいいまちになったんですよ。ロープウェイ街は何を考えているかっていうと、ロープウェイの駅舎と松山城、周りの観光三位一体のまちづくりをして、頑張っていきたいと考えております。それで、基本的には駅舎の前を、祭日あたりに通行止めにして、市をしてにぎわいをつくっていくようなこと、高知でいう朝市、もしくはひろめ市場みたいなものを作りたいと思っているんですけども、通行止めにするときに規制が多くて、各角に警備員立てとか、東京とかでいうとコーンバーで簡単に通行止めにしてたりするんですよ。その辺簡単に、駅舎の前を通行止めにするに関しては、横に逃げれますし、後ろにバス置場もあるので非常にいい。まさに本館に似たまちづくりになると思うんですよ。そこで朝市を含む松山市の2大観光地としての松山のロープウェイ街、駅舎の前の通行止め、にぎわいに関してどう思われているかということをお聞きします。

【市民部長】 大変我々にとってありがたいご提案でもありますし、今後考えなければならぬんですけど、そういう市をするのは、可能ではあります。それから通行止めなんかの規制を、例えば警察とかに相談が思うんですけど、その場合に非常に苦勞されとるという現状があるんですけど、今日来る前に地域経済課に相談しますと、そういう提案を、具体的にどうしたいかという主催する団体の方の今後の方針とか聞かせていただいて、行政と一緒に参加できないか、そのあたりもう一回検討させていただきたいと。それがありますと、松山市が参加しますといろんな利便性も向上できますし、警察規制、それから道路使うときは市道の場合、松山市の道路管理課というところで許可したりしますので、一度ご提案いただいて、具体的に行政と地域の方がどういう連携ができるのか相談させていただきたいということがありますので、またよろしく願いいたします。

【市長】 行政が主体でやるよりも、地区の方がまとまっていただいて、こういうのしたいんじやって言っていただいたほうが結構通りやすいです。行政が主体

でやると皆さんの意見と違ってて継続せんかったっていうことでもありますので、地域の方々がやりたい、まとまってるっていうことで提案していただいたほうが、ずれがないので動きやすいところがありますので、また相談させていただいたらと思います。まさにロープウェイ街は坂の上の雲のまちの代表的なところだと思いますが、23年の末でNHKのスペシャルドラマ坂の上の雲が終わりましたので、その後のまちづくり、「たからみがき」のまちづくりを言ってます。これは、松山城とか道後温泉とか瀬戸内の風景とか瀬戸内の幸とか公共交通とか、公共交通は1,800自治体がありますけれども、路面電車残ってるの全国17都市しかないんですよ。この公共交通が残っていたのは松山大きいですね。あと現実の数字として、1日1人当たりのごみの排出量は5年連続で日本で最少です、50万人以上都市で。あと、防災士の数は自治体別で一番とか、女性消防団の数は日本で一番とか、野球文化がある、言葉の文化があるとか、こういう宝を皆さんと一緒に磨いていこうというのが「たからみがき」のまちづくりです。これは坂の上の雲のまちづくりの継承、発展ですので、継続していってます。例えばスポーツのイベントなんかでは、坂の上の雲のと言いやすいですね、「このしんどい世の中やけど、坂の上の雲めざして頑張っていこうね」というのはスポーツのイベントなんかでは言っております。また観光の誘致を積極的に進めているんですけど、「この松山に来て坂の上の雲の理念を感じてくださいよ」「企業さんが研修に来るには、しんどいけども前向きに頑張っていこうっていう理念を感じてもらうには坂の上の雲のまち松山最高ですから、企業の研修旅行も来てくださいね」みたいなことで坂の上の雲のことも盛んに言っておりますので、またご理解いただけたらと思います。よろしくお願いします。

【男性】 今言うたロープウェイ街は非常に確かによくなって、立派になったので、私らも感心して歩くのも楽しみになりましたけど、その反面、東雲神社の通りから北側、西一万の商店街、これ松山城を中心にした観光地でありながら、その至近距離である歩道が狭くて、そしてまたあそこは、日赤をはじめ、小中学校そして愛大、護国神社に至る道路、非常に朝は通学児童も多いと思います。もっと歩道を広くできないだろうか、あるいは、ちょっと勝手な言い方もわかりませんが、平和通りに至る距離約200メートル余りだろうと思うんですが、例えば、速度制限10キロ、そして、大名通りとか大奥通りとか、そういうぐらいの

発想でできないだろうか、そのような考えを持っております。

【都市政策課長】 東雲神社から平和通りの区間、今おっしゃられたこの道路につきましては、平成10年に歩道整備を行っております。幅員が12メートルですので、歩道幅員としては狭いだろうとは感じております。ただその中でまた道路拡幅ということですが、拡幅するためにはやっぱり皆様のご協力が絶対条件でございます。道路広げるためには用地とか、建物とか地権者の皆様のご協力が何よりも大事ですので、同意がいただけるようになりましたら、市のほうにご相談いただければ、今後考えていきたいと思っております。

【市長】 一般的なことですが、こちらのほうから道を広げたいので下がってください、売ってくださいという方向性になるんですか。地元の方々が地権者の同意は得たからお願いしますという形になるのか、どうなんでしょう。

【都市政策課長】 都市に必要な道路は都市計画決定をしまして、将来的に道路を広げますよという制限をかけております。ただいまの道路も都市計画道路で、12メートルという計画をして、今、完了済という道路でございます。これからなおまた広げる場合には、新たに都市計画決定する方法もございますが、事業化が担保されていないと新たに都市計画決定できませんので、そのためにはやはり皆様のご協力が必要だということです。

【市長】 これは愛媛大学もある、中学校もある、小学校もある。幸い小中学校と大学生の朝の通学の時間がずれているので、ですけど夕方なんかは重なるときもありますので、通行量が多いだろう、日赤の例えば月曜日の朝9時ごろとか車も多いだろうなとよくよく認識しておりますので、ただほったらかしにするのではなくて、何らかのいい方策、うっていききたいと思っております。

【男性】 私は去年、関西のほうに住んでおまして、定年退職を機に40年ぶりに松山に帰ってまいりました。実家は山越のほうにあるんですけども、今の流行ですが、都心化、便利なところに住みたいということで、この東雲地区でマンションを買いまして住まわせていただくことになり、ちょうど1年経ったところなんです。親戚なんかも、「おお、東雲のマンション買ったんか。」いうて、うらやまれるような状況でして、そういう意味では今、東雲地区に住むというのは非常に便利がよくて、皆さんからうらやまれるようなところだと思って私も住んでいます。それからこの1年間に帰ってやることもありませんので、お城下大学だとか

ずっと参加させていただいて状況を聞かしていただきますと、だんだん今、不安になってきているところです。というのは、地方都市、車社会化しまして、どんどん中心部から郊外へ公共施設だとか商店街、お店さん、住民なんかも移っていくんです。松山市だけはまだここが中心部が栄えてるということで、今治市の常盤商店街とか新町、本町なんかはもうまさにアーケードの中を車で走れるんですね。ここの商店街、自転車で走っても怒られるんですけども、あっちのほう、車が走れるんです。新居浜市の登道商店街だとか昭和通り商店街も車でアーケード走るとるんですね。こうなるというのが日本全国一般的なところで、そういう形になっていくのに松山市はうまくやっていけたらと思っとるんですが、お城下大学なんかに参加しますと非常に不安になりまして、どうも商店街空き店舗率10パーセントを超えとるんだそうです。あそこもシャッター商店街になってしまう寸前なんです。ここの路面電車なんかでも、もう年々乗客が減ってまして、郊外電車では森松線が廃止になりましたけども、次は本町線が廃止になる、三津浜線が廃止になるんじゃないかいうようなうわさが出ている状況です。さらにJRなんか開業以来20数年、乗客が半減してまして、とうとう数年前から赤字で補助金をもらって10年後に返し始めるときまでに本当にどうするのかという状況になっとるんですね。とにかく今、市で進められとる歩いて暮らせるまちづくりに非常に期待をしてまして、この東雲地区を荒廃したまちにしないようにぜひよろしくお願ひしたいという要望をさせていただきたいと思います。

【市長】 これについては私から述べさせていただきます。少子高齢化といいますが、すけれども、高齢の方が増えてくると当然、視力も落ちてくる、運動能力も落ちてくるということで、自動車の免許は返上するという事も考えなければなりません。また、片や少子というと、子どもさんの数が少なくなってくる、そうなるとう働いて税金を払ってくれる人たちが少なくなるというのを意味します。ですので、これからはかつての日本、高度経済成長のときがそうだったように、大きな道路をどんどん郊外に延ばしていく、そして下水道をどんどん延ばしていくというふうにはならない。そんな中で松山は非常に可能性が高いところです。なぜかという、平たん部が多い。ですから歩いてください、自転車に乗ってくださいというのがまだできます。坂がいっぱいだったらなかなかできない。そして、都市の機能が中心部に集約されています。役所、銀行、学校、医療機関、都市の機

能が中心部に集約されています。そして、それを取り囲むように路面電車が
あります。公共の交通機関、バス、電車が
あります。さっき申し上げたとおり、およそ1,800自治体があるんですけど、路面電車があるまちは17だけ、その中の1つが松山です。これからのまちづくりでよくするのが、TODのまちづくりっていうんですけど、これができるまちなんです、松山は。**Transit** 輸送を、**Oriented** 適用させて、**Development** 発展させるという考え方。平たくいうと商業地、いわゆる中央商店街、商業地と住宅地、商業地とマンションを隣接させて、公共交通をもっと利便性の高いようにして、都市を
発展させるというTODという考え方が今、国土交通省、環境省、厚生労働省を中心に出ているんですけど、そのまちづくりができるのが松山なんです。花園町、社会実験させていただきましたけども、もう車の通行量からすると、全盛期の半分ぐらいになってるんですね。ですから、電車複線、2車線ずつの車道、イチョウ並木、副道、アーケード商店街という市内で一番広い40メートルの通りですけども、もう車半分ぐらいになってますから、左折右折はちゃんと配慮させていただくけれども、車の道路をちょっと狭くして、歩く人そして自転車の人に、もっと歩きやすい、自転車で通りやすい空間改変をしましょうというのが花園町
の社会実験なんです。社会実験ですから「いいですよ」「悪いですよ」そんな声が出てきて当然。ロープウェイ街の以前の社会実験のときには市役所の電話が鳴り続けたそうなんですけども、今回花園町はほとんど電話ならなかったそうです。社会実験ですので、もちろん地元の皆様と一緒に計画をしっかりといいものにしていきたいと思っております。あと5分くらい、もしよろしかったら。

【男性】 私が今からお話するのは、先ほど、市長が松山のたからみがきですか、よそからの人、松山市外からの人を呼び込むための何か光るものを探そうということをやっていますが、今、皆さんご承知のように市内電車、道後とJRの駅前、古町、市駅間、新しい形の坊っちゃん列車、それに関連しての話です。JR山口線とか大井川鉄道におきましては、SL、蒸気機関車とか電車の古い車両の、実際の運転が行われて注目されております。そこで、松山市におきましては、最新の装置を備えて現代に蘇った坊っちゃん列車でありますけども、これを市内じゃなくて、郊外に延ばしたらどうだろうという話。春は菜の花の中、夏は入道雲の沸き立つ皿ヶ嶺のふもと、瀬戸内の海岸沿いとか、秋は紅葉を背景として、咲き

乱れるコスモスの中とか、冬は白銀に輝く石鎚を背景にして、冬晴れの道後平野を走らせるという郊外電車、高浜線、横河原線、できれば郡中線も走らせたい、横河原線と郡中線は単線ですので、ちょっと今のままでは厳しいけれども、高浜線は高浜の駅のところだけが単線になりまして、ほかのところは複線になってますので走らせることは可能だと、ちょっと線路の整備というのは必要になりますけれども。終点の高浜とか、手前の三津では、それこそアジの干物とかほかの海産物が売れんかという思いも。横河原まで延ばすことができれば、皆さんご承知かと思えますけど、横河原の駅前にアイスクャンディ屋さんがありますから、そういうのを土産にすることできるんじゃないかという話。郡中線であれば出合の「若鮎の二手になりて上りけり」子規ですかね、俳句の風景ありますし、それぞれの風景、郷愁があります。特にこの路線の大手町駅前と古町駅では、路面電車と郊外電車が交差する全国でも珍しい地点になります。全国でいわゆる鉄ちゃんとかいって鉄道ファン、鉄道を追いかける人たちにとっては有名なところですよ。これがもし、郊外にも走らせることが可能になれば、新たな人を呼び込む力になる、一助になるんじゃないかという思いがあります。高浜線だけであれば、高浜駅構内に複線化すれば可能かと思えますので、提案ということでよろしく願います。

【市長】 大変夢のある話で、私も坊っちゃん列車が郊外電車走ったらええ風景やろうな、お客さんようけ来るやろうな、ほんなら松山の地域経済効果にもなるやろなと思っておりますけども、これ結構出てくる話で伊予鉄道さんの回答があるんですよ。方針が。

【都市政策課長】 現実的な問題というのがやはり出てきます。例えば、車両の重量、普通の郊外線と坊っちゃん列車の重量の違いによって、例えば踏切の反応、踏切で重量によって電車が来ますよという踏切の信号をおろすとか、それで、また速度も違うわけですよ。郊外電車は時速が50キロ、坊っちゃん列車が20キロとか速度が違いますので、郊外線になかなか適用されにくいとか、またホームの高さも違います。そういういろんな課題があるんですけど、今のところは非常に難しいと思えますけど、こういうお話は夢のあるお話ですから、また我々も頭の中でしっかりととどめておきたいと思えます。ありがとうございました。

【市長】 例えば皆さんが要望書とか、皆さんがすごいまとまって絶対乗るよと

かなるとまた風向きも変わってくるのかもしれないですね。あまり軽率には言えないですけども、はい。ちょっと時間を延長させていただいて、35分までやらせていただきました。皆さんの手も大体一巡したようですので、このあたりでお開きとさせていただきたいと思います。

今回、様々ご意見をいただきまして、できるもの、また、できそうなものといったほうがいいですかね、また、ちょっと検討させていただかなければならないものというのがいろいろありました。1カ月をめぐりに必ず返答させていただきますので、また、それで皆さんのご意見、我々の意見、市の方針、こう積み重ねていってよりよいまちづくりにつなげていければと思います。最後に、市役所といいますけども、私が考えておりますのは、市民の皆さんの役に立つところで市役所でなければならないと思っております。案外、市役所って敷居の高いところじゃなくて、結構、相談していただいたら実はこんな方法があるんですということもお話することもできますので、敷居が高いとか役人とか考えないで、人同士でありますので、どうか来ていただいて相談していただいたら、できることもまた増えていくと思いますので、これからも東雲のまちづくりに力を貸していただけたらと思います。今日は長時間にわたりましてお世話になりました。ありがとうございました。

— 了 —